

1 はじめに

本校では、児童主体の特別活動に力を入れている。様々な行事に合わせて、運営委員会を中心に児童会活動を行ってきた。しかし、近年の新型コロナウイルス感染症の感染状況や働き方改革が叫ばれている中で、以前と同様な活動の運営、維持が難しくなっている。そこで、活動内容を精選しながらも、いかに児童中心でやりがいのある特別活動を実践していけばいいのか、という視点で活動を考えていく。

2 資料

(1) 創立記念集会

ア 校内スタンプラリー

校内の特別教室など生活とかかわる場所をスタンプの配置場所として設定した。運営委員の児童がスタンプの場所のヒントを示すクイズとスタンプラリーの用紙を作成し、それぞれの場所にスタンプを持って待機した。在校児童は休み時間を利用してスタンプを集めに回った。スタンプをすべて集めた児童には、手作りの賞状を贈呈した。



イ 黙動清掃（感謝清掃）

学校に対して感謝の気持ちを確認し、普段使っている教室や担当の清掃場所を丁寧に無言で清掃した。集中して一生懸命清掃することができていた。



ウ 掲示物の作成

大沼小への感謝の気持ちや創立を祝う気持ちなどを児童一人一人に配布した画用紙にかいてもらい、回収して一つの大きな掲示物を作成した。



エ 創立記念集会の運営

運営委員の児童が中心となって、teams を用いたオンライン集会を実施した。児童一人一人がかいた画用紙を集めて作成した掲示物を紹介した。



(2) お年玉付き校内年賀状

ア 景品の準備

さまざまな委員会が、年賀状の景品として準備できるものを考えて、作成した。(例：図書委員会…本のしおり、栽培委員会…朝顔の種、運営委員会…大沼かるた、など)



イ 年賀状の回収・配付・当選番号発表会

運営委員の児童が大きなポストを持って各クラスを回り、12月中に回収した。回収した年賀状はクラスごとに仕分けして、1月に配布し teams を用いた当選番号発表会を行った。



3 成果と課題

- ・児童一人一人が大沼小の児童であるという意識をもつことができた。また、大沼小に対する感謝の気持ちを再確認することができた。
- ・児童一人一人の思いを集めて一つの掲示物を作成することで、集団としての意識をもつことができた。
- ・それぞれの委員会が学校のためにできることを考え、自主的に活動することができた。